

令和2年8月19日

令和2年度 第1回 学校運営協議会

<運営協議会委員>

名 前	職 名
松 宮 新 吾	追手門学院大学教授
河原林 昌 樹	弁護士
上 甲 尚	門真市立第二中学校長
三 村 泰 久	門真市立脇田小学校長
峯 松 大 輔	門真市教育委員会
三 戸 治 歩	門真なみはや高校PTA会長

<事務局>

宮 田 幸四郎	教頭	桂 田 光	生徒指導部長
久 森 雅 代	事務長	松 村 尚 之	生徒会指導主任
宮 蘭 賢 二	首席	岡 田 真 美	保健部長
山 村 裕 子	首席	藤 田 和比郎	総務部長
山 田 浩 二	教務部長	金 秀 好	3学年主任
福 田 拓 矢	進路部長	山 口 周	2学年主任
		小 田 悟	1学年主任

<開催日時> 令和2年8月19日 15時～17時

<内容>

- 学校長挨拶
- 委員、教職員の紹介
- 要項の確認
- 議事

<審議事項>

- 1 令和2年度学校経営計画について
- 2 その他

<報告事項>

- 1 第1回授業アンケート質問項目について
- 2 教科書採択について
- 3 各学年、分掌より
- 4 その他

<審議事項>

○学校経営計画(中期的目標)について

確かな学力の育成について

Q:カリキュラム委員会の新カリキュラムに向けての取り組みは、どのようなものか?

A:カリキュラムマネジメントの観点から教育課程の編成だけにとどまらず、思考力、判断力、学びに向かう力など含めて考えている。本校ですでに取り組んでいるフィールドの取り組みが新カリキュラムのめざすものに合致していることから、これを生かしていきたい。地歴の必修修科目が増えることから選択の幅が狭まるところもあるが、本校の特色を維持しつつ編成することに重点を置いている。

Q:学校教育自己診断結果で、教員の「指導方法の改善・工夫が行われている」の第一評価が17%と低い、悲観的なのか?多忙なため授業準備に時間を割くことができない、ということか?

A:ICTを活用する授業を準備するためには、授業プリントを作成する以上の時間がかかる実態があるのは事実である。また、教室でプロジェクターを接続して使用するためにセッティングに時間がかかることも、ICT活用が広がるための阻害要因といえるかもしれない。しかし、今年度中に何とか据え付け型のプロジェクターを設置する方向で進めているので、この要因は解消される見通しである。

生徒のやる気スイッチをオンにする

Q:地域諸機関との連携について。高齢者と手紙でつながるといった取り組みのきっかけなどについて教えてほしい。

A:福祉フィールドの授業で、昨年度末にコロナ禍で施設実習ができなくなり、高齢者と触れ合う機会がなくなってしまったため、休校中の課題として、自分の祖父母も含めた高齢者をイメージした手紙を書く取り組みをした。丁寧なお返事をいただき、生徒たちにとっても大いに励まされる結果となった。

安全で安心な魅力ある学校づくり

Q:災害等非常時に備えメール配信システムを活用しているとのことだが、日本語指導が必要な生徒たちにメールだけで十分に伝わるのか?

A:日本語指導が必要な生徒たちには、一斉配信のメールに加えて、担任や渡日プロジェクトメンバーが個別にフォローしたりしている。

Q:コロナ禍で、感染が怖くて登校できない生徒などはいなかったか?

A:皆無ではなかった。分散登校開始から1か月後に心と体のアンケートを実施し、不安な気持ちをかかえている生徒のケアへとつなげた。

<報告事項>

○授業アンケートについて

今年度から、①教員からの一方通行の授業にならないこと、②授業の中で生徒が主体的に取り組む時間を作るという指標を加えた。

○来年度採択教科書の見本を展示して報告。

○各学年,分掌からの報告。

いただいた意見

- ・生徒たちが力をつけるために、色々と工夫されていることが分かった。オンライン授業の対応も検討されているとのことで努力されていると感じた。
- ・中学校も、行事、部活、班活動などいろいろと制約を受けている。ピンチをチャンスに変えられるよう発想を転換していきたい。なみはや高校に進学した卒業生がいい顔をしていてうれしかった。
- ・進学に向けて不安をかかえている生徒たちのことが心配。地域で、なみはや高校の生徒たちを見かけるが、いい顔をしていると感じる。
- ・コロナ禍で学習保障はもちろん必要だが、心のケアが重要だと感じる。不登校が増えている実態がある。オンライン授業について情報交換しながら進めていきたい。
- ・3年生の行事に保護者が参加できないことは寂しく感じるが、行事自体がなくなってしまわず実施できることはせめてもの救いだと感じる。

次回開催日時は、10月21日を第一候補に調整する。